

# 保育士の自己評価

社会福祉法人 鶴見乳幼児福祉センター

H27年10月作成→H30年4月改訂

鶴見乳幼児福祉センター保育園

市社協・保育福祉部会主催研修(H26年2月3日開催)

「保育所の自己評価」研修資料より抜粋

## \* 保育士のための自己評価 \*

### \* チェックシートの書き方 \*

① チェックシートに沿って自己評価をします。

- 《評価の目安》
- a … 十分わかる／十分出来ている
  - b … おおむねわかる／おおむね出来ている
  - c … あまりわからない／やや不十分
  - d … ほとんどわからない／改善を要する

② 各項目の上段を1年目、中段を2年目、下段を3年目に使用します。

③ 特に具体的に取り組んだ項目や気づき等を右欄に記載します。

# チェックシート

## \* 生活

	評価基準	記入年	評価項目ごとの評価結果				具体的な取り組み及び考察
			a	b	c	d	
1	子ども一人ひとりの発達状況と子どものおかれている事情を理解し、保育を行っていますか。また、日々の健康状態を把握し保育していますか？	2018年	42%	58%			一日を通しての保育を心掛け職員同士のノートの活用をしながら、必ず子どもの引継ぎを行うようにしている。全体のミーティング等で確認する。朝夕の職員と連携を取り、個々の発達状況を確認し合っている。
		2019年					
		2020年					
2	登園時に泣く子どもに対して、放っておいたり、叱ったりするのではなく、子どもの状況に応じて抱いたり、優しく声を掛けたりしていますか。また、自分の気持ちをうまく表現できない子どもの心情を汲み取ろうとしていますか。	2018年	63%	37%			各クラスで担任職員が受け入れをしている。泣いている理由を聞いたり気にかけて、気持ちに寄り添うようにしている。
		2019年					
		2020年					
3	保育室の換気や温度・湿度に配慮して保育していますか。	2018年	58%	42%			日誌に記入し意識している。温度・湿度計を確認し調整している。窓を開け換気をしている。
		2019年					
		2020年					
4	乳児においては、継続的に同じ保育士との関わりが保てるよう配慮していますか。	2018年	47%	47%	5%		1日を通し担当職員が関わるよう配置している。乳児は担当制を取り入れている。
		2019年					
		2020年					
5	食事の前の手洗いを励行する等、清潔習慣が身に付くように援助していますか。	2018年	74%	26%			清潔について話をしたり、絵本を読み手洗いの大切さを伝え洗う際は歌を歌っている。
		2019年					
		2020年					
6	子どもが残さず食べることを強制したり、偏食を直そうと叱ったりしていませんか。	2018年	68%	32%			自分で食べる量を決められるようにしている。苦手なものは1口は食べようねと声掛けし無理強いをしないようにしている。
		2019年					
		2020年					
7	子どもが落ち着いて食事を楽しめるように工夫していますか。また、時には様々な場所で食べる等の工夫をしていますか。	2018年	32%	68%			散歩先やテラスでおやつを食べたり、お弁当を持って遠足へ行ったり異年齢でホールで食事を楽しんでいる。職員も一緒に食べその日の食材を話している。
		2019年					
		2020年					
8	季節感のある食材に触れる機会を設けたり、子どもが育てた野菜等を料理して食べることがありますか。	2018年	63%	37%			育てた野菜を収穫し、味わう楽しさを共有した。調理体験。
		2019年					
		2020年					
9	食事(離乳食・アレルギー・偏食)病気(健康状態)は、家庭と連携を取りながら、一人一人の子どもの状況に配慮して対応していますか。	2018年	68%	32%			アレルギー面談をして、アレルギー食を提供している。毎月の献立チェック、プレート使用
		2019年					
		2020年					
10	調理をしている場面を子ども達が見たり、言葉を交わしたり出来るような工夫を行っていますか。また、子どもが配膳や片付け等に参加できるよう配慮していますか。	2018年	47%	47%	5%		調理室へ収穫物を子どもが届け接する位なのでもっとできると良い。保育室でサンマなど調理員がそばき、食事の様子を見に来てくれる。ガラス窓越しに見たり、言葉交わしている。
		2019年					
		2020年					
11	おもらしをした時に、その都度優しく対応し、子どもの心を傷つけないよう配慮していますか。	2018年	58%	42%			次につながるような声掛けをしている。おもらしの荷物の置き場や伝達の際備付けていないか心配になることもある。
		2019年					
		2020年					

# チェックシート

## \* 生活

	評価基準	記入年	評価項目ごとの評価結果				具体的な取り組み及び考察
			a	b	c	d	
1	オムツ交換時には、優しく声を掛けたり、スキンシップを行っていますか。	2018年	79%	21%			1対1で関わることでできる時間でもあるので大切にしている。会話をしながら行い時間が掛かることがある。
		2019年					
		2020年					
2	衣服の脱ぎ着に際して、せかしたり、着せてしまったりしないで、自分でやろうとする子どもの気持ちを大切にしていますか。	2018年	63%	37%			見守ったり、やる気になるような声掛けをしている。できない時は「手伝って」「やって」が言えるよう伝えている。
		2019年					
		2020年					
3	自分の物・他人の物・共同の物の区別に気付き、大切にできるようにしていますか。	2018年	32%	68%			共同の物の使い方をもっと知らせていきたい。
		2019年					
		2020年					
4	休息時には、子守唄を歌ったり、背中を軽くたたく等、安心して心地よい眠りにつけるように配慮していますか。	2018年	79%	21%			子守唄を歌うと途中で起きても歌うことで安心して眠っている。
		2019年					
		2020年					
5	乳児は一人一人の生活リズムに合わせて睡眠をとることが出来るように配慮していますか。また、乳幼児ともに休息時に、眠くない子どもへの配慮をしていますか。	2018年	47%	47%	5		個々にご午前後の時間を変えている。
		2019年					
		2020年					

# チェックシート

\* あそび

	評価基準	記入年	評価項目ごとの評価結果				具体的な取り組み及び考察
			a	b	c	d	
1	年齢に合わせて、素材や用具を子ども達が自由に取り出せる場所に置き、遊具の正しい使い方を丁寧に伝えたり、見守ったりしていますか	2018年 2019年 2020年	37%  	58%  	5%  		玩具の数や種類は時期によって変えるように心がける。使う量や片付け方も知らせたい。
2	自分のイメージを言葉等で表現したり、皆で一緒に表現する楽しさが味わえるようにしていますか。	2018年 2019年 2020年	58%  	37%  	5%  		リズムやごっこ遊び。発表会等ひとりひとりが自由に話せる時間を作る。
3	五感を感じたり、自然の素材に触れて、楽しむ機会を多く取り入れていますか。	2018年 2019年 2020年	68%  	26%  	5%  		散歩に行き草花に触れている。四季の移り変わり伝える。総持寺周囲の環境に恵まれている。
4	好きなことをしてくつろげる空間や子ども達がのびのびと身体を動かせるように時間場所・遊びを確保していますか。	2018年 2019年 2020年	47%  	53%  			環境設定はクラスで話し合い、必要な場合は変える。ホールで遊びのスペースを作ったり、子どもからアイデアを引き出して確保している。静と動を意識し保育を組み立てている。大きいクラスでもくつろげる環境を作りたい。
5	玩具・遊具は、必要に応じて、消毒したり衛生面に配慮していますか。	2018年 2019年 2020年	16%  	74%  	10%  		毎日行い、金曜に洗濯。ビュウラックスで玩具消毒。日々に追われ日が開いてしまった。
6	異年齢の子どもの交流が行われていますか。	2018年 2019年 2020年	53%  	42%  	5%  		夏祭り異年齢グループで神輿づくり等準備。合同遠足。ヘアで異年齢児での交流。朝の体操。リズム、わらべうたあそび交流。年長児がタクスにお手伝いをしに来て関わってくれる。
7	毎日の活動の中で数や量等にふれる機会を作っていますか。	2018年 2019年 2020年	47%  	37%  	16%  		わらべうたあそびや花はじき、お手玉などの玩具、収穫物の数など自然に興味を持ち覚えらる環境が作れている。1日の流れボードや時計、当番活動など。
8	つまづきや葛藤、けんかななどの経験が成長に欠かせないものにとらえ、適切に対応していますか。	2018年 2019年 2020年	74%  	26%  			大人が良い悪いを決めるのではなく、経験の中で気づいていけるよう意識して対応している。怪我の無いよう見守った。双方の話を受け止め子どもたちと一緒に糸口を探している。
9	子どもが思ったことを友だちや保育者に伝え、相手の思っていることにも気づくように援助していますか。	2018年 2019年 2020年	68%  	32%  			みんなで話して決めることが多い。集団の中で声の出さない子にも配慮している。双方の思いや気持ちを聞きながら双方に伝えている。
10	子どもが保育者や友だちと一緒に過ごすことを楽しめるような配慮をしていますか。	2018年 2019年 2020年	74%  	26%  			好きなことを楽しめるようにしている。
11	子どもが危険な場所や遊びが分かり、安全に気をつけて行動できるように働きかけていますか。	2018年 2019年 2020年	68%  	32%  			前もって伝えている。危険なことをしていたら、その都度1対1や集団に向けて話すようにしている。

# チェックシート

## \*障がい児保育

	評価基準	記入年	評価項目ごとの評価結果				具体的な取り組み及び考察
			a	b	c	d	
1	障がい児保育について保育内容や方法に配慮し、定期的に話し合い見直す機会を設けていますか。	2018年	26%	68%	5%		会議(クラス・ケース・保育等)で情報を共有し子どもへの対応について話し合い、アドバイスを提起している。(4人) 計画書をクラスの中で見直しているが全体でももっと共有できるとよい。
		2019年					
		2020年					
2	不安や焦り等の悩みを抱えている保護者の気持ちの援助に心掛け、相談に乗ったり情報を提供していますか。	2018年	56%	37%	5%		育児相談、個別面談、送迎時の声掛け、連絡帳等活用。時間的に中々会えない保護者もいる。家庭環境に合わせて援助している。自分が未熟な為、声をかけていいか戸惑う。
		2019年					
		2020年					
3	障がい児保育に関する研修を受けたり、必要に応じて専門機関などと連携が取れていますか。	2018年	53%	37%	10%		療育や役所等情報交換をし、連携をとっている。今年度は研修を受けていないが、受けた職員の報告を受けている。
		2019年					
		2020年					

# チェックシート

## \* 職員

	評価基準	記入年	評価項目ごとの評価結果				具体的な取り組み及び考察
			a	b	c	d	
1	「保育の主役は子どもである」ことを意識し思いや考えを取り入れた保育をしていますか。	2018年	53%	47%			話せなくても、思いを汲み取り保育している。子どもに相談しながら保育をする。
		2019年					
		2020年					
2	正しい言葉遣いや声の大きさを意識して子どもと話をしていますか。	2018年	42%	53%	5%		子どもの様子を見ながら話している。余裕が無くなると大きな声を出していることがある。大きな声になり過ぎないように心掛けた。
		2019年					
		2020年					
3	「ありがとう」「ごめんなさい」等生活に必要な言葉が自然に使えたり、心のこもった挨拶が交わせるような保育をしていますか。	2018年	79%	21%			言わそうとしないようにしている。自分から言おうと思えるように待つ。保育者が見本になるように心掛けている。大人の言葉をよく聞いていることを意識している。
		2019年					
		2020年					
4	保育者の言動の一つ一つを、子どもはモデルとして学び活動している事を知っていますか。	2018年	68%	32%			保育者の言葉がけ行動などを真似ていると感じている。生活の中で子どもの見本となるように常に意識している。
		2019年					
		2020年					
5	職員間で「報・連・相」ができていますか。	2018年	21%	63%	16%		けがやトラブルの際は各クラスの担任に報連相をしている。ME(伝える事)を細目にするようにしているつもりだが、もっと必要だと思う場もある。
		2019年					
		2020年					
6	交通安全の習慣が子どもの身につくような保育に心掛けていますか。	2018年	58%	37%	5%		普段の散歩等でも伝えているが、交通安全教室など専門家を呼んで行事としても行っている。
		2019年					
		2020年					
7	災害が起きた時や不審者が侵入した時、自分は何の様に対応するか分かっていますか。	2018年	32%	68%			訓練で役割は理解しているが、予想外の対応に不安はある。毎月の訓練でシミュレーションしている。子どもの安全を第一に考えている。
		2019年					
		2020年					
8	保育計画が適切であったか振り返りを行い、改善していますか。	2018年	37%	58%	5%		月カリキュラム、日誌の自己評価等。保育の柱も全クラスが関わり、確認した。振り返り、反省をしその後のやり方の改善をしていく。また、担任間での話し合いを行う。
		2019年					
		2020年					
9	新採用職員・後輩に配慮し、温かい人間関係を作るようにしていますか。	2018年	53%	47%			何でも聞いてもらえるようにゆとりを持つ様になっている。挨拶をしたり、子どものことなど話している。なるべく自分から話すようにしている。
		2019年					
		2020年					
10	個人情報の管理を適切に行い、伝達や相談の際、人に聞かれないよう配慮していますか。	2018年	53%	47%			
		2019年					
		2020年					
11	「保育所児童保育要録」を学校生活に役立つように記載することを知っていますか。	2018年	53%	37%	10%		経験がない為、詳しくはわからない。
		2019年					
		2020年					

# チェックシート

## \* 職員2

	評価基準	記入年	評価項目ごとの評価結果				具体的な取り組み及び考察
			a	b	c	d	
1	子どもが自然現象の不思議さに気付けるようにし、一緒に調べたり身近な動植物の世話をする中で、生命の尊さに気付くようにしていますか。	2018年	37%	53%	10%		サリガニにみんなで名前を付け、飼育している。季節に合った生き物(サリガニ、鈴虫、カブトムシ、青虫、蚕等)を世話した。絵本や図鑑などで一緒に調べる。
		2019年					
		2020年					
2	人権に十分配慮すると共に文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるように配慮していますか。	2018年	37%	53%	1%		わらべの講師と勉強会があり、保育についてのアドバイスをもらい見直している。宗教食への配慮。外国籍の子とのかかわり。
		2019年					
		2020年					
3	地域と良好な関係を築けるよう挨拶をしたり、行事に誘ったりして、地域の保護者が気軽に保育園を利用できるようにしていますか。	2018年	42%	58%			散歩先では自分から挨拶する。交流保育、行事へのお誘いポスター-掲示、おひさまの活動、町内会。
		2019年					
		2020年					
4	保育者自身が積極的に子どもと関わり遊んでいますか。	2018年	63%	37%			子どもの楽しいを共有しようと思っている。
		2019年					
		2020年					
5	乳児を寝かせる場合には安全に配慮し、呼吸と体位のチェックを行い記録していますか。又事故予防に努めた保育を行っていますか。(おんぶ・抱っこ・ベビーカー・シャワー・オムツ交換時等)	2018年	63%	37%			毎日呼吸チェック表に記入。
		2019年					
		2020年					
6	子どもの病気やアレルギーについて、確認・対応を行っていますか。	2018年	63%	37%			アレルギー-面談、複数での献立や配膳のチェック。定期的に確認できる体制を取らないといけない。様々な病気の知識をもっと深めていきたい。
		2019年					
		2020年					



# チェックシート

## \* 保護者支援

	評価基準	記入年	評価項目ごとの評価結果				具体的な取り組み及び考察
			a	b	c	d	
1	「保護者の子育てを支援する」という役割を意識し、成長や子どもを育てる喜びが共有できるよう配慮していますか。	2018年 2019年 2020年	53%  	47%  	  	  	保護者に会えた時は今日の様子や、最近の様子を伝えている。連絡ノートや面談、お迎え等に成長したことを伝えている。
2	連絡帳等で日常の子どもの様子を伝え合ったり、必要に応じて個別に面談を行っていますか。	2018年 2019年 2020年	68%  	32%  	  	  	食事のアドバイスを個別で行う。連絡帳、面談で様子を伝えている。
3	保護者からの相談内容などを、園長・主任等に相談したり記録し継続的な支援をしていますか。	2018年 2019年 2020年	47%  	53%  	  	  	日誌や経過記録に記入。
4	保護者からの要望に配慮したり、快く対応するよう努めていますか。	2018年 2019年 2020年	42%  	58%  	  	  	
5	保護者に参加してもらえそうな行事については、事前にその趣旨を説明し、理解や協力を要請していますか。	2018年 2019年 2020年	58%  	42%  	  	  	ニュース(お便り)園だよりを発行している。掲示、保育参加への呼びかけ、お礼など直接声をかける。
6	園のしおりの内容や保育課程等を理解し保護者へ分かりやすく伝える事が出来ていますか。	2018年 2019年 2020年	26%  	74%  	  	  	保育過程は伝える機会が少ない。

## \*2018年度 総評\*

- ・毎日子供と触れ合う中で食事・排泄などの基本的支援の関わりは高い評価がでている。  
個性を大切に、食事の際自分で食べられる量を決められるよう働きかけたり、苦手な物も1口は食せるよう配慮している。食事を楽しみにできるよう季節に合わせた食材・行事食の提供をしている。子どもと育てた野菜を調理職員に料理してもらったり、自分たちで調理を楽しんでいる。  
オムツ交換の際は、優しく話しかける等1対1で関わり、発達を促す大切な時間だととらえて接している。
- ・睡眠時には保育者がいつもうたっているわらべうたをうたい途中で目覚めてもやさしく唄うことで安心して入眠している。
- ・散歩に出掛ける機会を多く持ち、木の実を拾ったり自然に触れたりし、四季の移り変わりを伝えるようにしている。
- ・子どもの感じる心を大切に、喧嘩も成長の過程ととらえ見守り、気持ちを受け止め相手の気持ちも知らせるようにしている。
- ・保育の主役は子どもであることが分かり、こどもが自分たちで気付けるような働きかけをしたりなんでも大人が決定するのではなくみんなで話し決めている。  
保護者には連絡ノートで様子を伝えたり、会えた時に(シフト勤務の難しさはあるが)直接話したり面談の機会を設け情報提供できるよう努力している。得た情報は職員間で報告し合うが引継ぎを忘れることもありさらに改善が必要。  
行事に関しては、おたよりなどを使用し内容を伝えているが、分かりにくさや伝えきれないこともあり工夫や改善を要する。  
毎日のノート交換がないクラス幼児クラスも、日々の保育をファイルに書いて知らせ過去のページのものも読み返せるようにしてある。
- ・地域の方とは挨拶を交わしたり、支援事業には担当職員がいて園庭開放や交流を行っている。
- ・研修を通し学んでいるが、障害児保育や人権・文化自然事象など難しい表現の項目についてできているか?の問いにはb評価がついている、文章での表現の幅が広がるような伝え方や得た知識を広げられるようにしていきたい。

## \*2019年度 総評\*

--

# 保育園の自己評価

社会福祉法人 鶴見乳幼児福祉センター

鶴見乳幼児福祉センター保育園

2018年1月

## 保育理念

＜子どもの人権・人格の尊重・自立への援助＞

\* 子ども時代を子どもらしく生きる

温かく見守り、子どもの最善の利益を考慮する。

現在を最もよく生き将来望ましい未来を作り出せる力を養えるように適切な援助をして日々の保育活動を行う。

\* 子ども達一人一人を大切にする保育

一人一人が快適に過ごせる環境づくりと共に、保育者を含めた周りの環境に自ら関わり、

その中でいろいろな経験をしながら遊びを展開していける保育活動を行う。

また、子どもが愛されている・自分は大切な存在だと感じられる保育活動も行う。

## 基本方針

\* 愛と希望に満ちた明るい保育を目指し、子ども達の間人形成の基礎作りをする。

\* 地域社会や保護者の意見を大切に、相互の連携を密にして信頼関係に基づく保育運営に努める。

\* 地域に開かれた施設として、保育園で持っている乳幼児保育に必要な事柄の提供・開放を行う。

## 保育目標

『いっぱい遊ぼう 笑顔の毎日～Smil and Heart～』

遊ぶの大好き 食べるの大好き 元気印

自分が好き みんなも好き ハート印

子ども達の声が響きわたり、笑顔があふれている保育園。

『子どもが主役』の保育園を目指し、

子ども一人一人を大切にします。

## 評価記入方法

- |             |          |
|-------------|----------|
| a 良くできている   | c やや不十分  |
| b だいたいできている | d 改善を要する |

\* 2018年 58名中、57名提出  
 \* 2019年 名中、 名提出  
 \* 2020年 名中、 名提出

項目	内容	記入年	評価結果 %					意見・改善策	
			a	b	c	d	未		
保育理念・目標について	子どもの人権・人格を尊重し子どもの意思・自立への援助が出来ている。	1	2018	32	60	2	2	5	気持ちを受け止め大切にしているが、大人の都合での対応になってしまうこともある。人権についての共通理解(実務も含め)が必要。保育の振り返り学ぶ機会がある。
			2019						
			2020						
	子ども達一人一人を大切に保育している。	2	2018	58	39	4	0	0	集団が大きい分、大切にできていないこともある。まだまだ一人一人にあった育ちの環境を学ぶべき。すぐに話を聞けない時でも必ず後から声を掛ける。
			2019						
			2020						
保育理念・目標は全員で検討し、かつ共通理解を図っている。	3	2018	33	56	4	2	5	朝夕職員との共通理解が難しい。掲げていることを当たり前のごとく検討していない。	
		2019							
		2020							
理念・目標は子どもを尊重したものになっている。	4	2018	68	30	2	0	0		
		2019							
		2020							
温かく見守り、子どもが自分の思いなどを保育者に伝える大切さを職員が共通理解している。	5	2018	39	56	4	0	2	見守りや関わりを持ちながら子どもが話をできる環境づくりをしている。時間に追われた時、温かく見守ることが難しくなる。	
		2019							
		2020							
現在を最も良く生き、将来望ましい未来を作り出せる力を養えるように適切な援助をしている。	6	2018	32	60	7	0	2	適切な援助ができていないか確信を持つことが難しい。援助が足りていない時がある。	
		2019							
		2020							
保育発達援助	温度、湿度、採光、音が常に適切に保たれている。	7	2018	40	53	4	2	2	天気の良い日や夕方は階段が暗いように思う。湿度を上げるのが難しい。温度等よく気にしている。
		6	2019						
		7	2020						
	指導計画は子どもが興味、関心をもって好きな遊びを十分楽しめるようになっている。	8	2018	53	42	0	0	5	カリを見ながら話し合いたい。保育指導ししっかり話し合い意識して計画を作っている。
			2019						
			2020						
	子どもが健康に生活する場になっている。	9	2018	72	26	0	0	2	なるべく薄着の習慣を心掛け天気の良い日は積極的に戸外へ行っている。消毒(玩具・手)衛生に気を配っている。
			2019						
			2020						
	指導計画は定期的に評価、見直しを会議等で行い共有している。	10	2018	42	51	0	0	7	朝夕会議では行っていない。日々話したり、会議での計画の確認もしているが話し合う時間が足りない日もある。各クラスでスグンでいる事などケース会議などで話し合っている
			2019						
			2020						
異年齢交流の計画を作成し実施している。	11	2018	35	51	4	0	11	夕方の保育ではできていない。幼児は良く交流をしているが、子どもたちの姿を視点とした計画が書面であるとのおよ(今は職員の連携が中心)乳児はない。	
		2019							
		2020							
子どもが好きな遊びを十分楽しめるよう柔軟性のある計画になっている。	12	2018	40	54	0	0	5	各年齢に合わせて遊びなどの工夫を考えたり環境作りをしている。	
		2019							
		2020							

項目	内容	記入年	評価結果 %				意見・改善策	
			a	b	c	d		
発達援助	子どもの生活の連続性を踏まえ、保護者との連携、情報共有が行われている。	2018	30	63	2	0	5	ノートや直接会ったとき。
		2019						
		2020						
	子どもが愛されている、自分 は大切な存在だと感じられる 保育活動を行っている。	2018	47	49	0	0	4	子どもをたくさん認め沢山褒めている。
		2019						
		2020						
	子どもが遊具や用具、素材な ど自分で取り出して遊べるよ うになっている。	2018	49	46	5	0	0	クラスの遊具の見直しが必要。子どもの取り出しやすいところに玩具を置いている。
		2019						
		2020						
	経過記録を活用し、進級児の 申し送りを担任間で行ってい る。	2018	35	47	2	0	16	経過記録の活用はされていないが別様式で申し送りしている。
		2019						
		2020						
	子どもが自己選択、自己決 定、自己活動できる環境を確 保している。	2018	32	56	5	0	7	自己決定ができるような言葉がけを意識しているが、大人の都合で促すことがある。
		2019						
		2020						
保育について	子どもの年齢発達にふさわし い環境構成にしている。	2018	46	53	2	0	0	各クラスで毎月話し合っている。
		2019						
		2020						
	環境の構成を意識した保育や 過程を常に工夫し、清潔、安 全が保たれている。	2018	33	61	2	0	4	棚の上に物を置いてしまっている。ほこりがたまりやすい場所の掃除が行き届かない時もある。
		2019						
		2020						
	子どもが自分から思わず関わ りたくなるような魅力ある環 境構成をしている。	2018	19	77	0	0	4	室内の玩具や環境設定は時々変えられるようにしている。
		2019						
		2020						
	必要に応じてプライバシーが 守られる空間を確保できるよ う工夫している。	2018	47	39	9	0	5	手作りの仕切りを活用中。着替えやトイレが室内にあるとプライバシーの確保が難しい。おひさまサロン、絵本コーナーの活用。
		2019						
		2020						
	季節の移り変わりが感じられ るような環境を構成している。	2018	56	42	2	0	0	季節の物をイメージして作っている。時間的に余裕なく十分できていないと感じる。
		2019						
		2020						
子どもが人とのやり取りを育 む環境を構成している。	2018	44	53	0	0	4	ごっこ遊びができるコーナー作り。	
	2019							
	2020							
長時間における保育の環境を 整備し、保育の内容や方法を 職員で共有している。	2018	23	60	11	0	7	朝夕の職員とも共有できるように話しているが伝えきれていない部分もある。共有認識が甘い部分がある。	
	2019							
	2020							

項目	内容	記入年	評価結果 %				意見・改善策		
			a	b	c	d			
保育について 養護と教育	小学校への移行が円滑に行われるよう、交流したり、要録の送付等を行っている。	25	2018	51	28	2	2	18	分からない(5名)
			2019						
			2020						
	職員が養護と教育を理解し実践している。	26	2018	30	54	5	2	9	理解の仕方に差がある。全体的な計画、カリキュラムなど全職員で話したり確認している。
			2019						
		2020							
統合保育の意味や有益性を理解し共有している。	27	2018	25	58	5	2	11	統合するねらいや目的を理解することが不十分。	
		2019							
		2020							
配慮を要する子どもや障害のある子どもの対応やケアについて職員が情報を共有している。	28	2018	35	53	5	0	7	会議やクラスなどで伝えてもらっているが、細かい部分の援助の仕方ですることがある。	
		2019							
		2020							
保護者と必要に応じて情報の共有をしている。	29	2018	56	33	4	0	7	個人ノートを交換、共有している。必要に応じて担当が直接話をしている。	
		2019							
		2020							
健康・安全について	内科健診、歯科検診、身体測定等を定期的に行い、配慮が必要な結果であれば、医師の指示に従っている。	30	2018	82	16	0	0	2	園医川端ドクターに相談、メールでやり取りをしている。
			2019						
			2020						
	全職員に対してSIDSに関する知識が周知され取組が適切に行われている。	31	2018	53	39	2	2	5	マニュアルで周知を行っているが、直接睡眠に関わらない時間帯の職員には周知されていない。
			2019						
		2020							
配慮を要する子どもの食事の提供方法や誤飲防止等について、マニュアル等を作成し、職員間で共有している。また、医師の指示のもとで除去食を提供している。	32	2018	74	21	0	0	5	保護者の意向を聞き可能な限り対応している。マニュアルを共有している。わかりやすいマニュアルが良い。	
		2019							
		2020							
食の大切さを知り、食事を楽しめるよう工夫したり働きかけている。	33	2018	67	21	5	0	7	米や野菜を栽培し調理し、食べる経験を多く取り入れている。食べられない子への配慮が足りないと感じることがある。	
		2019							
		2020							
避難訓練等安全に関する訓練が定期的に行われ、適切な対応が職員に身についている。	34	2018	61	39	0	0	0	不審者や竜巻の訓練に参加で出なかつたので参加できるようにしたい。毎月訓練を行い、職員の動きがスムーズになっている。	
		2019							
		2020							
保護者支援	保護者に寄り添い保護者が自己決定を出来るように、子育ての相談に応じたり、個人面談の機会を設けるなど、積極的に保護者に対する支援を行っている。	35	2018	58	35	0	0	5	
			2019						
			2020						
保護者と日常的なコミュニケーションを図り、信頼関係を築く大切さを職員間で共有している。	36	2018	49	44	0	0	5	共有はされていないと思う。	
		2019							
		2020							
児童虐待を発見した場合の対応について、マニュアルがあり職員間で確認している。	37	2018	40	40	4	2	12	1年の中でマニュアル研修をすると全職員の理解となる。	
		2019							
		2020							

項目	内容	記入年	評価結果 %					意見・改善策
			a	b	c	d		
保護者支援	家庭支援の必要な保護者を援助し、虐待を予防する体制になっている。	2018	39	47	2	0	12	担任、園長の早期対応できていた。努めているが、限界を感じる。
		2019						
		2020						
地域支援	地域のニーズ(子育て支援・高齢者の福祉等)に応じて、施設の専門性を生かしたサービスを提供している。	2018	42	53	2	0	4	改善しながら、積極的に行っているが高齢者の方の支援が弱い。
		2019						
		2020						
	職員が子育て支援の重要性を認識し、保護者が安心して気持ちよく利用できるよう共通認識している。	2018	40	54	0	0	5	認識できているか？職員の意識に差があるように感じる。
		2019						
		2020						
	実習生、職業体験、ボランティア等の受け入れマニュアルがあり、保育所の基本姿勢や方針を職員に周知している。	2018	42	46	2	0	11	受け入れに当たっての方針を明確化はしていない。
		2019						
		2020						
	地域と協力して行事を行う等、地域の団体や機関と連携している。	2018	47	51	2	0	0	常設園、地区イベント、地域へ出向いてリズム等講師、等。地域の行事に参加できる機会があると良い。
2019								
2020								
ホームページ、パンフレット等の資料を、公共の場におくなど情報の公開をしている。	2018	75	23	0	0	2	HP開設に伴い今後充実予定。	
	2019							
	2020							
職員の資質向上	保育士は自らの保育実践を振り返り評価し専門性の向上や改善に努めている。	2018	42	53	2	0	4	
		2019						
		2020						
	年間を通して自己評価する機会を設けている。	2018	68	26	2	0	4	年間を通してはできていないこともある。
		2019						
		2020						
	自己評価を活かしてキャリアアップを図るよう育成している。	2018	33	49	5	4	9	全職員の育成はされていないように思う。
		2019						
		2020						
	研修の成果を日常の保育に生かし、乳幼児の育ちに反映させている。	2018	40	53	0	2	5	わらべうた研修、会議で報告したり保育の中で実際にやってみている。
2019								
2020								
評価の結果を課題として明確にし、改善につなげている。	2018	26	63	0	2	9	改善されていないこともある。繋げていきたい。	
	2019							
	2020							
各職員に期待される役割、目標、人材育成の方法が明確化され、計画的に行っている。	2018	23	54	7	2	4	人材育成が不十分だと感じる。役割をもっと具体化にし仕事内容もマニュアル化した方がよい。	
	2019							
	2020							
非常勤職員に関しても資質向上に向け、研修の機会を設けている。	2018	25	53	14	5	4	朝夕の職員は研修が少ない。朝夕職員も研修の報告を受ける機会があってもいいのでは？園内での研修をする機会をもっと作りたい。	
	2019							
	2020							

項目	内容	記入年	評価結果 %				意見・改善策	
			a	b	c	d		
社会的責任 運営・管理	苦情を職員間で共有し、保育の改善に生かしている。	2018	47	46	2	0	5	苦情を受けた際、専用の記録用紙に記入している。共有できるように改善策がある。
		2019						
		2020						
	苦情解決緒仕組みを保護者に説明している。	2018	33	49	0	4	14	説明会やクラス懇談会で話している。第3者委員を設けている。
		2019						
		2020						
運営・管理・社会的責任	守秘義務の意義や目的を全職員に周知している。	2018	61	30	0	0	9	
		2019						
		2020						
	保育園の専門性を高め、活性化を図るため自己研鑽に対する援助や助言をしている。	2018	33	53	5	0	9	
		2019						
		2020						
	地域にある保育園として社会的責任を果たし専門性の向上に努めている。	2018	49	44	0	0	7	
		2019						
		2020						
	各種会議を適切且つ効率的に進めている。	2018	19	60	9	2	9	会議内容をもう少し短縮し、重要事項のみ提起して欲しい。日々の会議の多さで多忙を感じる。
		2019						
		2020						
職務内容が明確で協働できる体制になっている。	2018	18	61	11	0	9	もっとやることが明確になればやりやすいと思った。上の人たちの職務内容がわからない。不明で困ることがある。	
	2019							
	2020							
職員を適材、適所に配置している	2018	19	61	9	4	7	子対保育者の人数を意識して保育すると、事務や話し合いの時間がとりやすくなると思う。	
	2019							
	2020							
各種会計を適正かつ適切に処理している。	2018	61	28	0	2	7	質問するとテキパキ対応が早い。	
	2019							
	2020							

**【総評】**  
子どもへの援助・子どもの人権について、気持ちを受け止めることを大切に、自己決定できるような意識・努力をしているが、余裕のない時など大人の都合で行う・促す対応が出てしまうこともある。  
生活の流れを主にするのではなく『育ち』を意識した保育ができるよう工夫が必要。  
子ども主体の保育を心掛けており、子どもの言ったことや姿から柔軟に対応できるよう工夫が必要。  
大きな集団の中で一人ひとりを大事にするのがあいまいになってしまったり、適切な援助ができていないか確信を持つ難しさがある。どのくらいどこまで援助が必要か、人によって違う。また、クラスの悩みなど会議で話す機会があるが、共通理解の為に日常の保育の際にもっと声を掛け合う環境作りに努めたい。  
地域のサービスについて、常設園として改善しながら積極的に提供している。  
『養護』と『教育』について、理解の差がある。全体的な計画の話の中で一つ一つ確認したい。  
各職員に期待される役割が不明で困ることがある。もっと具体化し仕事内容をマニュアル化した方がいいとのあがっている。また、評価が改善されていない・職員育成がされていない面があるとの意見もある。  
研修は、会議の場で報告する機会があるが、様々な勤務時間の職員がいるため書面での報告が中心となっている。どの評価にも言えることだが、共通理解をすることやその為に小さな伝え合いをより意識し取り組んでいこうと思う。  
反省点は、多々あるが職員が子どもたちと向き合い愛情を持って接し、日々保育に取り組んでいる姿は子どもや周りにいる人の笑顔に表れていると思う。  
センター保育園の楽しさを保護者・地域の方と共に有し、業務に励みたい。